鴨川版ＣＣＲＣ推進会議第１回会議　会議録

１　日　時　平成 28 年９月 26 日（月）　午後２時 30 分から４時 55 分まで

２　場　所　鴨川市役所本庁舎７階会議室

３　出席者等

（１）委員

№.	所属・職名	氏　名	備　考
1	医療法人社団宏和会エビハラ病院 理事	海老原　正明	１号委員
2	鴨川市立国保病院 院長	林　宗寛	〃
3	社会福祉法人太陽会 理事長	亀田　信介	〃
4	社会福祉法人鴨川市社会福祉協議会 常務理事	速水　一郎	〃
5	鴨川市介護保険運営協議会 会長	榎本　豊	〃
6	鴨川市農林業体験交流協会 事務局長	清水　宏	２号委員
7	鴨川市商工会 副会長	島田　誠一	〃
8	館山公共職業安定所　所長 ※代理出席（館山公共職業安定所　統括職業指導官）	宮内　清則 （栗原 章匡）	〃
9	公益社団法人鴨川市シルバー人材センター 会長	小畠　弘嗣	〃
10	学校法人鉄蕉館亀田医療大学 学長	橋本　裕二	〃
11	鴨川ふるさと会 顧問	石川　忠男	３号委員
12	特定非営利活動法人大山千枚田保存会 事務局長	浅田　大輔	〃
13	一般社団法人鴨川青年会議所 理事長	鎌田　浩茂	〃
14	特定非営利活動法人鴨川現代バレエ団　理事長 鴨川バレエアカデミー　代表	長村　順子	〃
15	株式会社千葉銀行鴨川支店 支店長	石渡　雄悟	〃

（順不同、敬称略）

※欠席委員

1	学校法人城西大学城西国際大学観光学部 学部長	渡辺　淳一	２号委員
2	総合型地域スポーツクラブ鴨川オーシャンスポーツクラブ　会長	山下　洋介	３号委員

（順不同、敬称略）

（２）市

No..	所属・職名	氏　名	備　考
1	市長	長谷川　孝夫	
2	参事	岩田　知也	
3	企画政策課　課長	平川　潔	
4	健康推進課　課長	牛村　隆一	
5	福祉課　課長補佐	加藤　道明	
6	子ども支援課　課長	羽田　幸弘	
7	農水商工課　都市農村交流係　係長	田中　仁之	
8	観光課　課長補佐	小柴　則明	
9	都市建設課　課長補佐	畠山　祐一郎	
10	生涯学習課　課長補佐	入江　裕一	
11	スポーツ振興課　課長補佐	鈴木　圭一郎	
12	国保病院　事務長	山口　幸宏	
13	企画政策課　課長補佐	大久保　孝雄	
14	企画政策課　地域戦略係　係長	滝口　俊孝	
15	企画政策課　地域戦略係　副主査	浦邊　彰紀	
16	企画政策課　地域戦略係　主事	小粒　将一	

（３）鴨川市ＣＣＲＣ構想等策定支援業務委託事業者

株式会社三菱総合研究所

松田 智生、上田 啓行、田村 隆彦、赤木　　匠、濱松 由莉　計５名

（４）傍聴者

計３名

４　配布資料

・次第
・委員名簿
・席次表
・出席者名簿
・資料１　鴨川版ＣＣＲＣ推進会議の運営方法について
・資料２　ピンチをチャンスに変える生涯活躍のまち（日本版ＣＣＲＣ）
・資料３　日本版ＣＣＲＣの概要
・資料４　鴨川市の現状と課題
・資料５　鴨川版ＣＣＲＣの方向性
・資料６　今後の進め方
・鴨川版ＣＣＲＣ推進会議設置要綱

５　会議内容

（１）開会（午後２時 30 分）

（２）委嘱状交付

市長から出席委員へ委嘱状（林委員については任命書）を交付した。

（３）市長あいさつ

（要旨）

地方創生に関する取組が全国的に進められている中、本市でも人口減少の克服、仕事づくりなどを目的に人口ビジョン及び総合戦略を策定した。総合戦略では、仕事が人を呼び、人が仕事を呼び込む好循環の確立と、その好循環を支えるまちの活力の創造を図ることを大きな命題として、地域の特色や地域資源を活かした施策を展開するとともに、特に充実した保健、医療、福祉環境等を活かし、健やかさと交流にあふれる鴨川市を創造するための施策を重点的に実施していくこととしている。その一つとして、本市への人の流れをつくり出すため、鴨川版ＣＣＲＣ構想の推進を位置付けた。

鴨川版ＣＣＲＣについては、東京圏を始めとする地域の高齢者が自分の希望に応じて本市に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療・介護が必要なときには継続的なケアを受けることができるような環境づくり、そして選ばれる市としての体制づくりを進めるものであるが、まずは、国の「生涯活躍のまち」構想なども踏まえ、本市の特徴を活かした鴨川版ＣＣＲＣ構想と、構想に基づく基本計画を策定することとしている。

この会議は、本市におけるＣＣＲＣの形成を民・官の協働により推進するための体制整備の一環として、医療、福祉、産業、労働、教育などの幅広い分野から構想等について協議するために設置したものである。本日は、庁内に設置した鴨川版ＣＣＲＣ推進プロジェクトのプロジェクトチーム構成職員のほか、鴨川版ＣＣＲＣ構想等策定

支援業務を委託している株式会社三菱総合研究所の方々も出席している。

構想等については、来年２月を目途に取りまとめていきたいと考えている。本市の未来を左右する非常に重要なプロジェクトと認識しているので、忌憚のないご意見をいただきたい。

（４）委員長・副委員長の選出

市長の進行により、委員長に 橋本 裕二 委員、副委員長に 石川 忠男 委員を選出した。

（５）議事

鴨川版ＣＣＲＣ推進会議設置要綱第５条第２項の規定に基づき会議が成立したことについて事務局から報告した後、同条第１項の規定に基づき、橋本委員長が議長として議事を進行した。

① 鴨川版ＣＣＲＣ推進会議の運営方法について

資料１「鴨川版ＣＣＲＣ推進会議の運営方法について」により、事務局から説明し、資料のとおり承認した。

この資料に基づき、議長から、名簿順に 海老原 正明 委員 及び 林 宗寛 委員を会議録署名委員として指名した。

出席者の主な発言は次のとおり。

（副委員長）

鴨川ふるさと会では、６年前に「いきいきふるさとコミュニティタウン構想」を当時の市長に提言した。長谷川市長は「（仮称）鴨川プラチナタウン構想」を政策に掲げて市長に就任し、所信表明でも検討の推進を表明したが、平成 26 年２月に企業誘致委員会でオール鴨川での取組を提言した後の動きを聞いていない。なぜ、これまで取組がみえてこなかったのかを伺いたい。

また、本推進会議の役割のほか、来年３月の市長選によってＣＣＲＣの活動が遅れるようなことはないか、今回のＣＣＲＣ構想はプラチナタウン構想と一致するものであるのかについても伺いたい。

市長の考える 10 年、20 年先のまちづくりのビジョンにこのＣＣＲＣを位置付けるべきと思われる。

（市長）

基本的な考え方として、本市は東京に近く、海、山等の資源や医療、スポーツ施設、大学、専門学校等を有することから、これらを活かし、首都圏から人を呼び込む政策の一つとしてプラチナタウンを考えたらどうかとの考えに共鳴し、現在に至っている。

旧鴨川市と旧天津小湊町の合併後 10 年を経過し、これからの鴨川の基本構想を策定しようという時期に、プラチナタウン構想、ＣＣＲＣ構想をこの過程で市民とじっくり話し合いながら考えてきた。行政だけでは難しい部分があり、民間資本を活用することが大切で、ＰＲしながら進めていく必要がある。そのための基本構想、基本的な環境を整えるべく、この会議を設置した。

今後、人の流れを県南の地に持ってくることができればよいと考えており、ＣＣＲＣ以外にも、スポーツ観光交流都市として、多くの人に鴨川へ来てもらうための施策も大切と考えている。

（事務局）

推進会議としては、設置要綱のとおり、構想づくり、計画づくりを本年度に行っていく。その後、事業者を募集し、具体的な事業を進めていく段階になると思われる。そうした際にも、さまざまな形で皆様に参加をいただいて進めていく必要があると考えている。

② 生涯活躍のまち（日本版ＣＣＲＣ）について

資料２「ピンチをチャンスに変える生涯活躍のまち（日本版ＣＣＲＣ）」により、(株)三菱総合研究所 松田氏から説明した。

出席者の主な発言は次のとおり。

（委員長）

アメリカのＣＣＲＣは年金生活で充足できる方が住んでいるのか。

（松田氏）

アメリカのＣＣＲＣには松竹梅があり、年金でやっていける方、年金に加えて自宅を売却あるいは貸す方がいる。

（亀田委員）

アメリカモデルは日本に当てはまらないと思われるため、リスターティングコミュニティというコンセプトがよいのではないか。これからの東京圏を救う田舎をつくれば、その田舎はつぶれない。上海における浦東をここにつくれば、東京が必要とするものとなり、徐々に人が移り住む。コミュニティは孤立しては成り立たないので、働き方を変えながら、徐々に移住を増やし、最終的には移住先で働くということが考えられる。

今後、最低賃金が上がっていくと、高齢者の雇用も難しくなってくるため、ボランティアのような活動を有償化するプラットフォームが生きがいを持った高齢社会に重要なのではないか。

鴨川には可能性がある。東京から孫、子どもが来てくれる距離感にあって、週末に来られるのも強みとなる。ディズニーワールドのような吸引力を持ちたい。

（松田氏）

アメリカの受け売りではなく、日本であれば年金以内でやっていけるモデルが必要。シニアだけでなく、多世代が輝くためには、交流人口を増やすことも必要。入居金に三世代のディズニーのパスポートが含まれているなど、仕掛けが大事。また、お金の不安をなくすことも必要。

（市長）

経済効果がどれだけあるか、という点も重要である。この４年間市民と話し合ってきた中で、人を呼び込めば仕事が生まれて経済効果が出る、という信念を持っているが、高齢者タウンにしてどうするのだ、という指摘もある。元気な高齢者を呼び込み、大学や里山で活動したりして、経済効果を生むことをしっかり位置付けていくことが必要と考えている。

（松田氏）

まさに合意形成が大事であって、経済波及効果や雇用という数値に加えて、地域の担い手になる方がわくわくするようなストーリー性も必要である。

（榎本委員）

ボランティアだと無償だから評価しないという人もいるが、無償であっても、生きがいという面で評価している人もいる。社会福祉協議会は、困っている人の支援などを無償で行うことが土台となっている。人間の評価には多様性があるということも位置付けていただけるとありがたい。

③　鴨川市における現状と課題、鴨川版ＣＣＲＣの方向性について

④　今後の進め方について

③及び④について、関連があるため一括して協議することとした。

資料３「日本版ＣＣＲＣの概要」、資料４「鴨川市の現状と課題」、資料５「鴨川版ＣＣＲＣの方向性」及び資料６「今後の進め方」により、(株)三菱総合研究所 田村氏から説明した。

出席者の主な発言は次のとおり。

（亀田委員）

都会の人はよく歩くが、田舎の人は歩かず、車に乗る。車がないと高齢者は生きていけない。都会の人も田舎に来ると歩いて生活できない。この問題を解決できると大きな強みになる。ただし、公共交通だけで解決するにはお金がかかりすぎる。コンパクトシティなど、行政としての基本的なまちのデザインが必要である。

（浅田委員）

ＣＣＲＣと同様に観光でも人を呼び込むという話があったが、しっかりとした考え方を一つ通すべき。過去にもいろいろな調査結果があるはずで、これらも踏まえて鴨川の課題を掘り下げ、そこをしっかり解決できればよいのではないか。

また、将来的に３万人を維持するのか、増やすのか、数値目標を明確にすべきではないか。

今後、移住意向調査を行うということだが、大山千枚田のオーナーにも移住意向を聞いているので、ふるさと回帰支援センターと協力し、この結果も反映できるようにするとよい。

自然景観を守っている町に魅力を感じるという調査結果があったが、生涯学習が進んでいるまちへの回答は少なかった。農業などの産業が景観の維持につながっているのであり、生涯学習とも関連すること、そのためのプログラムをきちんと考えていることをアピールすることで、魅力に感じてもらえるのではないかと感じた。

（市長）

これまで検討してきた資料も提供しながら、市役所の課を横断して考えていきたい。人口ビジョンでは、何もしなければ25年後に２万６千人程度に減少することが推計されている人口を３万２千人で歯止めをかけることを目標にした。出生率や移住の問題、雇用の問題など非常にハードルは高いが、ＣＣＲＣを一つの解決策としたい。

生涯学習のまちとして、鴨川の自然を守りながら、色々アクティブな生活環境を整えることが多くの人が鴨川に住んでもらえる要素となる。鴨川は大学、公民館やサークル活動もかなり活発である。これらを鴨川版ＣＣＲＣの売りの一つにしていきたい。

このほかに、海岸線を活用した商業・観光の活性化など、全体で４つのプロジェクトチームを動かしているので、総合的に考えていきたい。

（田村氏）

移住希望者のニーズが既にあるのであれば、反映して検討していきたいので、情報提供を願いたい。

（副委員長）

都会の人は、図書館やスポーツクラブ、談話するような喫茶はあるのか、という都市機能へのニーズがある。ボランティアについても、ボランティアポイントのような仕組みが機能していないところもある。僕らの世代は恵まれた世代で、年金、退職金が丸々もらえたのでポイントへの需要が無い。一方、今から退職する60代以降を呼び込むためには、仕事づくりも一緒にやる必要がある。

それから、お客様の満足度もぜひ考えていただきたい。市民も含めて、鴨川市に来て楽しかった、という気持ちになってこそ、住んでみたいと思える。

（清水委員）

地方創生について４つのプロジェクトが動いているが、ＣＣＲＣはこれらを全て包含している。ＣＣＲＣをベースとして、観光、子育て、農商工連携等を結びつけていくなど、優位性をつけていただきたい。キーとなるプロジェクトがＣＣ

ＲＣではないかと思っている。各分野から参加する委員として、我々がまちをつくっていくという意識で次回以降、臨めたらよい。足りないところをコンサルタントに支援いただきたい。

（長村委員）

17 年前に移住してきたが、中山間地域や海辺がどんどん荒廃しているように感じる。こうした地域の活性化に都会の方の力を入れていくという方向もあると思うが、市内の高齢の方々にいかに力を発揮し、農業指導などに入っていただけるか、そのあたりへの市民の協力・活用も計画の中に入れてほしい。

（市長）

市の将来都市像「活力あふれる健やか交流のまち鴨川」、その実現のための取組の一つがＣＣＲＣであるが、子育て支援は非常に大事だと感じている。いい子育てをしているところには必ず人が集まる。しっかり働きながら子育てができるまちが求められている。子育てトータルサポートプロジェクトとも連携していければと考える。

（委員長）

この資料は、この会議の基礎資料となるので、ぜひ目を通していただきたい。

⑤　その他

事務局から次の事項を説明した。

・次回会議の日程については、調整の上で改めて連絡すること

・次回会議以降は、受託事業者から連絡又は資料送付を行う予定であること

・会議録は整い次第、海老原委員、林委員に確認を願うこと

（６）閉会（午後４時 55 分）

以上

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第７条第３項の規定により、鴨川版ＣＣＲＣ推進会議第１回会議における会議録の内容について確認します。

平成28年10月24日

海老原　正明

林　　宗寛